

村の地域活性化 「国内外からもっと選ばれる観光地へ」

令和6年 5月12日

一般社団法人日本ファームステイ協会 代表理事
株式会社百戦錬磨 代表取締役CEO
上山 康博

本日の講演内容

1. 自己紹介および日本ファームステイ協会のご紹介
2. 数値で見るアフターコロナにおける観光消費動向
3. 農林水産省が進める地方型観光 = 「農泊」の取組
4. 地域一帯で取り組むアルベルゴ・ディフーズとは
5. イタリアのアルベルゴ・ディフーズ
6. 国内外からもっと選ばれる観光地域へ

1. 自己紹介および 日本ファームステイ協会のご紹介

上山 康博（かみやま やすひろ）

一般社団法人 日本ファームステイ協会（JPCSA）代表理事
株式会社百戦錬磨 代表取締役CEO



【略歴】

- Klabにて取締役事業本部長を経て、2007年に楽天トラベル入社、執行役員に就任
新規事業担当役員として、様々な新規サービスを立ち上げ
- 2012年に百戦錬磨を設立、現在に至る
- 観光庁 観光産業政策検討会委員等を歴任し、適法に民泊を推進する事業者として自民党 観光立国調査会、内閣官房の規制制度改革分科会等の各種会議に参加
- 現在は日本ファームステイ協会代表 理事、住宅宿泊協会 代表理事、歴史的資源を活用した専門家会議 構成員等に就任

【現任】

- 株式会社百戦錬磨 代表取締役CEO
- 一般社団法人 日本ファームステイ協会（JPCSA）代表理事
- 一般社団法人 住宅宿泊協会（JAVR）代表理事
- 一般社団法人 アルベルゴ・ディフーズインターナショナル極東支部 代表理事
- 内閣官房 歴史的資源を活用した専門家会議 構成員
- 農林水産省 農泊のあり方検討会 委員
- 東北運輸局 観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議 構成員

STAY JAPAN <https://stayjapan.com/>

- 一般の旅行サイトでは扱っていない地域の暮らしに根差した民泊、農泊、寺泊、城泊など約1,500弱*の個性豊かな宿泊施設が特徴



古民家泊（富山県南砺市）



農泊（秋田県仙北市）



寺泊（広島県広島市）



郷土料理泊（岩手県一関市）



農泊（広島県庄原市）



里山泊（宮城県伊具郡）



漁師泊（岩手県久慈市）



別荘泊（宮城県刈田郡）



寺泊（山口県長門市）



ホームステイ民泊（沖縄県国頭郡）



農泊（徳島県美馬市）



古民家泊（福島県二本松市）

*公開施設のみ。コロナ禍を経て、ホームステイ型（農家民宿）は休業から廃業したものもある。現在再稼働の可能性について個別に連絡中。



内堀 雅雄（福島県知事）

いつも当協会の活動にご協力頂き誠にありがとうございます。
政府は令和5年に「観光立国推進基本計画」を閣議決定し、近年深刻化している、地方の人口減少、担い手不足、空き家や耕作放棄地の増加、地域資源の荒廃、伝統文化の継承危機などの課題に対し「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」のキーワードを掲げ、解決に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響で観光業界全体は打撃を受けましたが、リモートワークやワーケーションなどの新しい働き方が定着する中で、都市部から離れた地方が注目を浴び、地方の魅力が再評価されています。

様々な環境の変化に対応するため、日本ファームステイ協会は地域の皆様と協力し、農泊・ファームステイを推進し、農山漁村の生活や活動に存在する地域資源を活かし、所得向上や地域の活性化を目指しています。農泊・ファームステイ事業を推進する皆様や支援事業者の皆様には、当協会の趣旨に賛同いただき、積極的にご参加頂けますことをお願い申し上げます。



理事長 皆川 芳嗣

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光が制限される状況が続きました。しかしながら、現在状況は回復しつつあり、これを機に、「ウィズコロナ時代の農泊」および、「効率的な回復への道筋」を検討、実施する局面であると考えます。当協会は民間事業者の皆様と、農泊の積極的推進に向けた活動を今まで以上に進めてまいりたいと考えております。皆様におかれましては、更なる当協会活動へのご支援をお願い申し上げます。

[現任]
一般社団法人 日本ファームステイ協会 理事長
株式会社 農林中金総合研究所 理事長
一般社団法人 日本農福連携協会会長
農福連携等応援コンソーシアム 会長

[歴任]
農林水産省事務次官
林野庁長官



代表理事 上山 康博

当協会に関わる、すべての関係者の皆様に対し、日頃のご指導ご鞭撻に深く感謝し、御礼を申し上げます。
本年はコロナ禍を乗り越え「農泊の復活」の年と捉え、積極的に協会活動を推進していく所存です。当協会の活動に関して、皆様からのご意見、ご要望を頂戴し、施策へ反映することが、農泊発展に寄与することと考え、例年以上に各地域の皆様と対話を継続していきたいと考えております。引き続き、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

[現任]
一般社団法人 日本ファームステイ協会 代表理事
株式会社 百戦錬磨 代表取締役社長
一般社団法人 住宅宿泊協会 代表理事
一般社団法人 アルベルゴ・ディフーズインターナショナル極東支部 代表理事

[歴任]
楽天トラベル執行役員（新規事業担当）
観光庁 ビジット・ジャパン・プラス 委員
観光庁アドバイザーボード 委員
農林水産省 農泊推進のあり方検討会 委員

【役員等】

会長理事	内堀 雅雄	福島県知事
理事長	皆川 芳嗣	株式会社農林中金総合研究所 理事長／元農林水産省事務次官
代表理事	上山 康博	株式会社百戦錬磨 代表取締役社長
理事	岡崎 浩巳	地方公務員共済組合連合会 理事長／元総務省事務次官
	武藤 浩	株式会社みずほ銀行顧問／元国土交通省事務次官
	清水 清男	株式会社農協観光 代表取締役社長
	青木 貴晴	一般社団法人全国農協観光協会 代表理事専務
	境 克彦	株式会社時事通信社 代表取締役社長
	小谷野悦光	株式会社日本旅行 代表取締役社長
監事	菅田 充浩	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 パートナー
顧問	最明 仁	公益社団法人日本観光振興協会 理事長
	蒲生 篤実	日本政府観光局（JNTO） 理事長
評議員	青木 辰司	東洋大学 名誉教授 前東洋大学社会学部教授
	安倍 映里	日本航空株式会社 ソリューション営業本部 副本部長
	藤間 則和	一般社団法人全国農業協同組合中央会 常務理事
幹事長	杉本 一郎	株式会社時事通信社 取締役
事務局長	大野 彰則	株式会社百戦錬磨 取締役
事業局長	米持 貴史	専従職員
品質支援研究所長	青木 辰司	東洋大学 名誉教授 前東洋大学社会学部教授
特別顧問	ジャン・カルロ・ダッラーラ	アルベルゴディフーズインターナショナル会長

【会員数】

（敬称略）

正会員	： 166団体
自治体会員	： 83団体
社員／賛助会員	： 23団体
関連団体	： 18団体

*2023年12月1日現在
（2018年2月7日設立）

上山 が代表または理事等法人

【百戦錬磨 株主】

Gaia
GAIA Corporation
<http://www.nszao.co.jp>

WIL
WORLD INNOVATION LAB
<https://wilab.com/>

AID PARTNERS
<http://www.aidpartners.com/>

KEIO
<https://www.keio.co.jp/>

JTB
<https://www.jtbcorp.jp/jp/>

CRESCO
<https://www.cresco.co.jp/>

JAL
JAPAN AIRLINES
<https://www.jal.com/ja/>

Sansei Landic
<https://www.sansei-l.co.jp>

knt!
近畿日本ツーリスト
<https://www.kntcthd.co.jp/>

エイデル
<https://www.able.co.jp/>

One Two Smile OTS 沖縄ツーリスト
<https://www.otsinfo.co.jp/>

とっとりキャピタル株式会社
<https://www.tottoricap.com/>

OKB グループ 株式会社OKBキャピタル
<https://www.okb.co.jp/>

池田泉州 キャピタル
<https://www.si-cap.jp/>

百戦錬磨

JAVR 住宅宿泊協会
Japan Association of Vacation Rental

MSO 一般社団法人
宮城創生DMO

JPCSA 一般社団法人
日本ファームステイ協会

【連携企業】

時事通信社
<https://www.jiji.com>

NTOUR
<https://ntour.jp/>

全農 ZEN-NOH
<https://www.zennoh.or.jp>

Donuts
<https://www.donuts.ne.jp>

Sansei Landic
<https://www.sansei-l.co.jp>

AID PARTNERS
<http://www.aidpartners.com>

INTRANCE
<https://www.intrance.jp>

EY
https://www.ey.com/ja_jp

日本旅行
<https://www.nta.co.jp>

REVOLUTION
<https://revolution.co.jp>

・HAKUHODO・
<https://www.hakuhodo.co.jp>

Others

【正会員】

agoda
<https://www.agoda.com>

airbnb
<https://www.airbnb.jp>

Trip.com Group
<https://jp.trip.com>

tujia 途家民宿
<https://www.tujia.com>

百戦錬磨
<https://www.hyakuren.org>

Booking.com
<https://www.booking.com>

Rakuten STAY
<https://stay.rakuten.co.jp>

expedia group
<https://www.expedia.co.jp>

Hotels.com
<https://jp.hotels.com>

【理事】

Wasshoi Lab
<https://wasshoilab.jp/>

Life Bridge
<https://www.lifebridge.jp>

Gaia
GAIA Corporation
<http://www.nszao.co.jp>

inoutbound
<https://www.inoutbound.co.jp>

CHIBA JUU
<https://www.chibajuu.jp>

ココロにごちそう旅
<https://www.tabino.co.jp/>

百戦錬磨
<https://www.hyakuren.org>

やまところ
<https://corp.yamatogokoro.jp>

U-media
<https://www.u-media.jp>

【発起人4社】

百戦錬磨
<https://www.hyakuren.org>

TOUR
<https://ntour.jp>

全国農協観光協会
<https://www.znk.or.jp/>

JJI PRESS
時事通信社
<https://www.jiji.com/>

【賛助会員】

JA全中 JA全農 農林中金 日本農業新聞
全国機関7団体
<https://life.ja-group.jp/>

全厚連 共済連 家の光
<https://paradigm-shift.co.jp>

日本旅行
<https://www.nta.co.jp>

・HAKUHODO・
<https://www.hakuhodo.co.jp>

Sansei Landic
<https://www.sansei-l.co.jp>

Accelia
<https://www.accelia.net>

JAL
JAPAN AIRLINES
<https://www.jal.com/ja/>

airbnb
<https://www.airbnb.jp>

JR
JR東日本
<https://www.jreast.co.jp>

EY
https://www.ey.com/ja_jp

Will Smart
<https://willsmart.co.jp>

TOKIO MARINE NICHIDO
<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp>

【行政】

観光庁
DMO
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/>

MAFF 農林水産省
農泊採択 地域協議会
<https://www.maff.go.jp/>

国土交通省
<https://www.mlit.go.jp>

厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp>

デジタル庁 Digital Agency
<https://www.digital.go.jp>

総務省
<https://www.soumu.go.jp>

内閣府 Cabinet Office
<https://www.cao.go.jp>

環境省 Ministry of the Environment
<https://www.env.go.jp>

【政治】

ファームステイ（農泊）推進
議員連盟

ワーケーション推進
議員連盟

【その他連携団体】

farm STAY UK
<https://www.farmstay.co.uk>

Adi
<http://www.albergodiffuso.com>

THE JAPAN UZBEKISTAN Silk Road FOUNDATION
<https://www.uzf.or.jp/>

JAVR 住宅宿泊協会
<https://www.javr.org>

全国二地域居住等 促進協議会
<https://www.mlit.go.jp/2chiiki>

一般社団法人 全国古民家再生協会
<http://www.g-cpc.org>

宇佐国東半島 観光・地域振興広域連携Project
<https://www.oita-kenshin.co.jp/>

INAKA 遊ぼう 泊まろう
<https://www.pref.miyagi.jp/site/nohaku/>

ながね 田舎
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/tanada/sentei.html>

NIPPON FOOD SHIFT
<https://nippon-food-shift.maff.go.jp>

「農泊」は、地域課題解決の為にゲートウェイである

昨年より、当協会は【「農泊」は、地域課題解決の為にゲートウェイである】というミッションのもと、第2ステージの活動へ突入を致しました。

農林水産省が主幹として、「観光立国推進基本計画」に基づき、「持続可能な観光地域づくり」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」のキーワードのもと、推進する農泊地域創出の取り組みも、当初目的の500地域を超え、2023年5月現在では621地域を数えるまでになり、本年も継続的に拡大を続ける予定です。

しかしながら、昨年度（2022年度）は、2019年に始まった「コロナ禍」の継続により、農泊地域ではその対応等も含め、活動が制約されたりし、大きな「負」の環境が継続していました。

一方で、テレワーク、「密」を避けた地方への観光シフト、アウトドア需要増加など、コロナ禍における新たな観光・旅行需要が生まれ、農泊地域には追い風となる話題も生まれてきました。

2023年5月、ようやく新型コロナウイルス感染症は、外出自粛要請等を行わない5類感染症へと移行し、本格的なアフターコロナ局面へと突入しています。

当協会が考える、我が国における慢性的地域課題は、今や国家的課題になっています。

当協会は、これら課題を「農泊」を通じて解決をすることを目指し、日々活動を行っています。

- ＜地域課題＞
- ・人口減少
 - ・経済縮小
 - ・空き家増加
 - ・耕作放棄地増加
 - ・山林管理問題

現在、観光業界は、コロナ禍以前のように復活を遂げつつあるとの声も聞こえますが、多くの農泊地域では、復活の波に乗る準備体制が不足している地域も多くあります。

昨今の新たな流れである「DXやGXへの対策」、「地域活動の担い手不足への対策」、「国土強靱化や食料安全保障」など、農泊地域においては対応不可欠な新たな、複合的課題が多く発生しています。

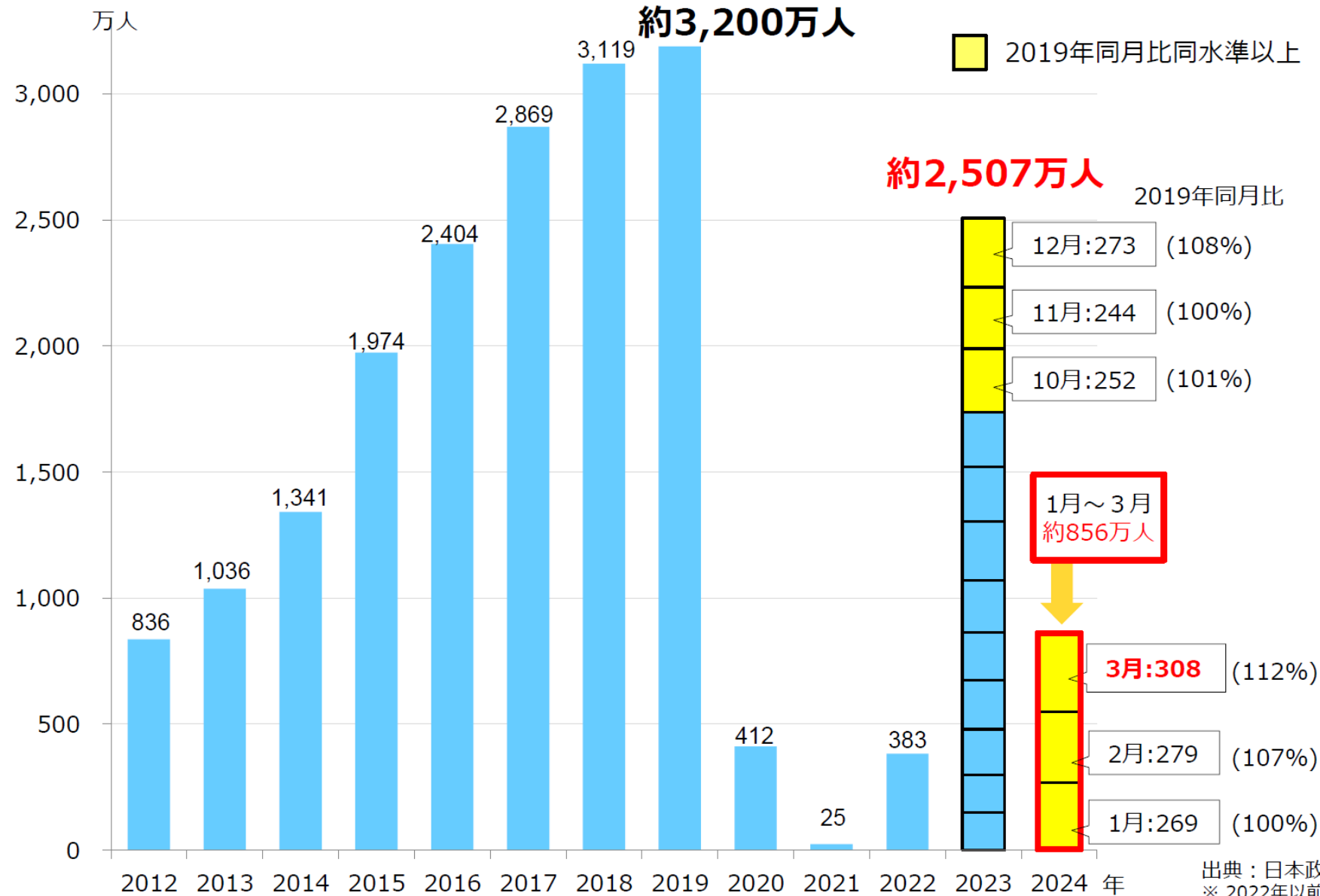
当協会は、活動を通じ、「農泊の確実な復活に向けた支援体制の整備」、「地域が持続発展する為の課題解決」を今まで以上に推進していきたいと考えています。

2. 数値で見るアフターコロナにおける 観光消費動向

インバウンドの状況（旅行者数）

- 2022年10月の水際措置の緩和以降、**訪日外国人旅行者数は堅調に回復し、2023年は2,500万人を超えた。**
- **3月の訪日外国人旅行者数は約308万人**とコロナ前2019年と比較すると**112%の回復**（中国からの訪日を除くと**127%の回復**）となり、**昨年10月より6ヶ月連続で単月ではコロナ前の水準を回復した。**
- **1月～3月の累計では約856万人**と**第1四半期で過去最高**となった。

訪日外国人旅行者数の推移



国・地域別訪日者数上位

	2024年3月 (2019年同月比)
①韓国	66万人 (113%)
②台湾	48万人 (120%)
③中国	45万人 (65%)
④米国	29万人 (164%)
⑤香港	23万人 (135%)

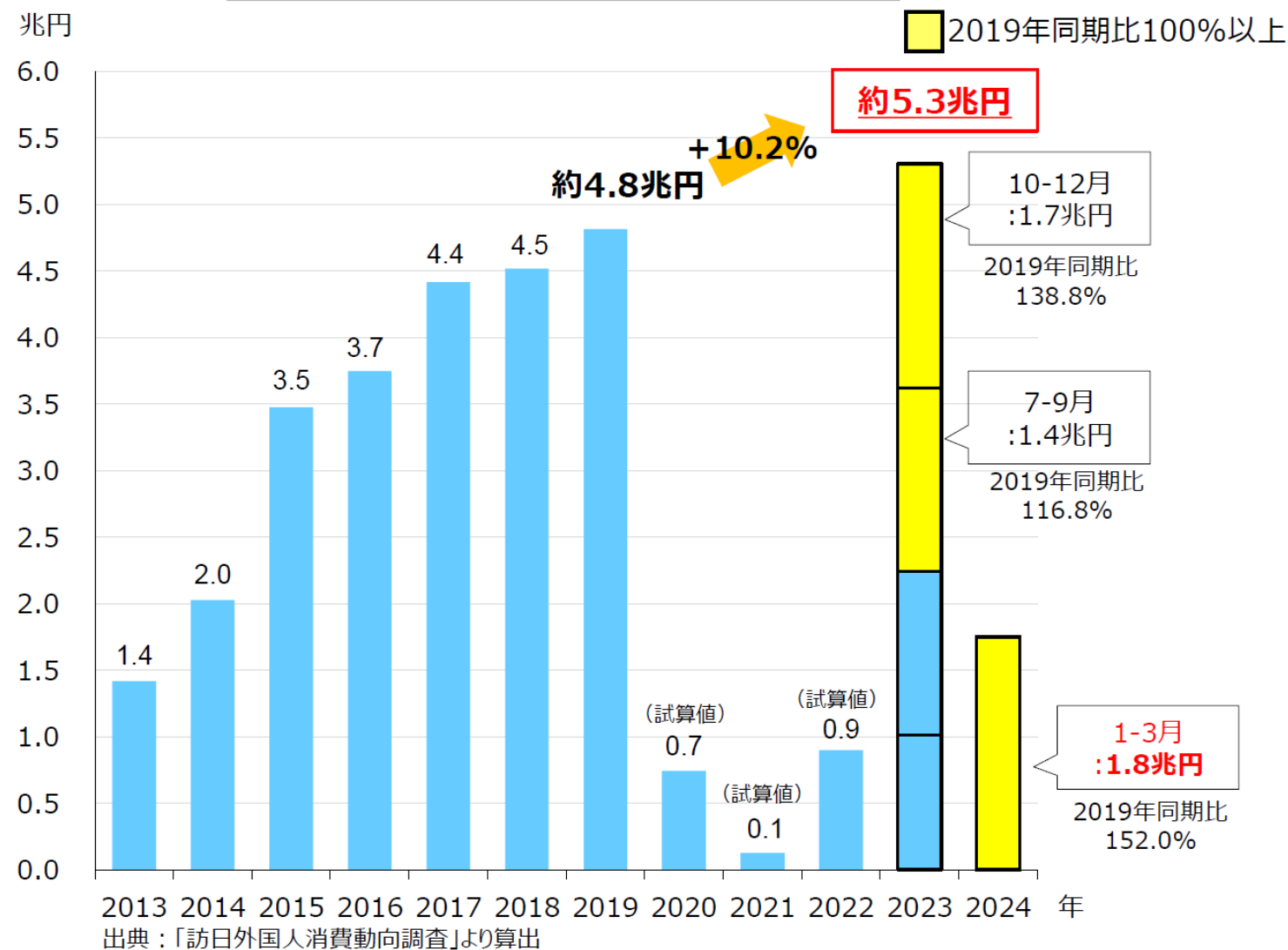
出典：日本政府観光局（JNTO）

※ 2022年以前は確定値、2023年、2024年1月の値は暫定値、2024年2月及び3月は推計値

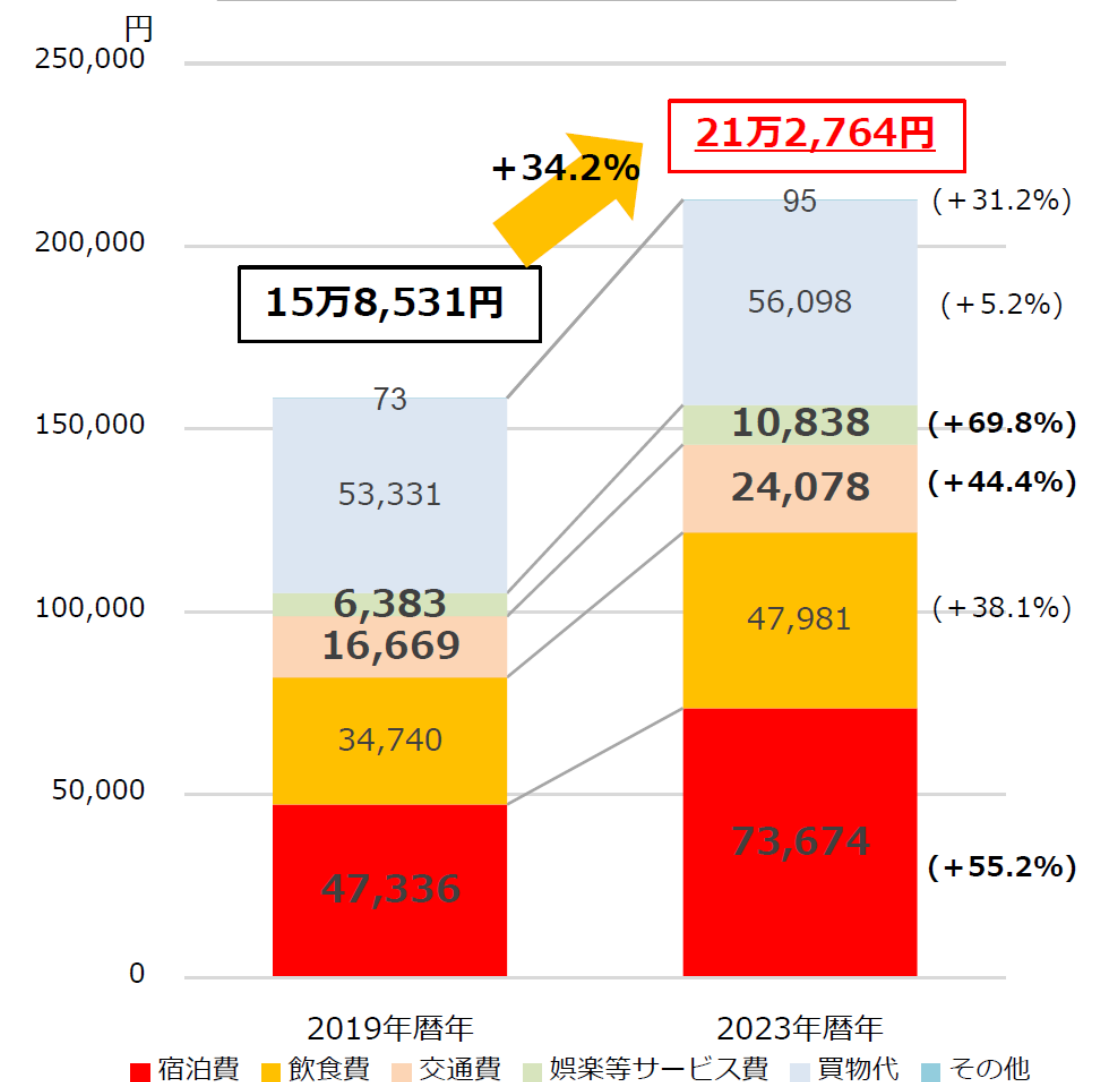
インバウンドの状況（消費額）

- 2023年の訪日外国人消費額**は、**5.3兆円**と過去最高（2019年は4.8兆円。2019年比10.2%増）
- 訪日外国人（一般客）**一人当たりの旅行支出は、約21万円**（2019年比34.2%増）
- 費目別にみると、宿泊費、娯楽等サービス費、交通費等が上昇
※**平均泊数が伸びたこと**（8.8泊→10.1泊）や**円安・物価上昇の影響**等が考えられる
- 2024年1－3月期**の訪日外国人消費額は、**約1.8兆円**と四半期として過去最高。
一人当たりの旅行支出は**約21万円**。

訪日外国人旅行者による消費額の推移



費目別 1 人 1 回当たり旅行消費単価

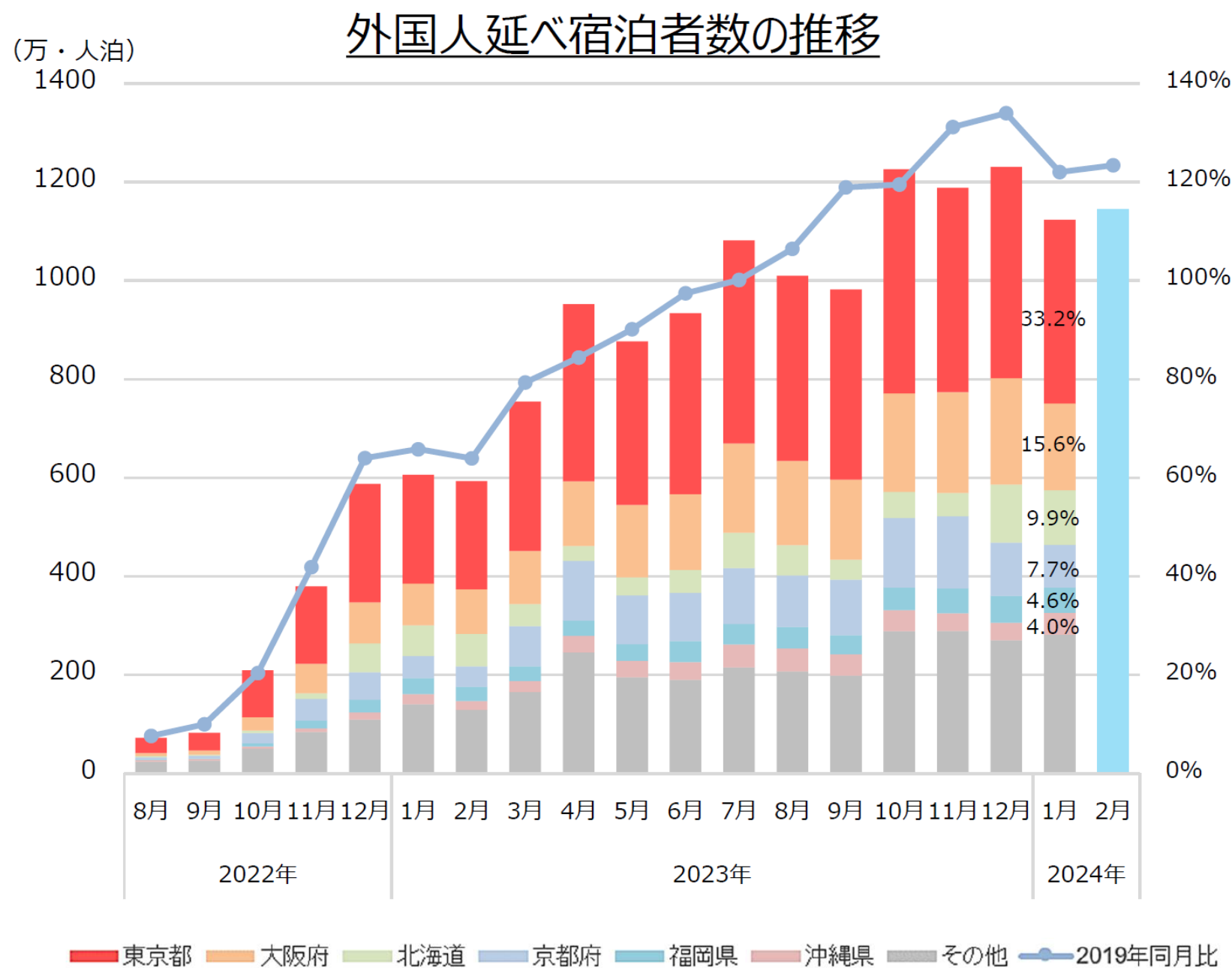


インバウンドの状況（延べ宿泊者数）

○2023年の外国人延べ宿泊者数は約**1.14億人泊**で、**コロナ前の約99%まで回復**（2019年：約1.16億人泊）

○宿泊先は、**三大都市圏のみで約7割**を占め、コロナ前と比べて**偏在傾向**が強まっている

（2019年：62.7%→2023年72.1%）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

都道府県別外国人延べ宿泊者数（2023年）

三大都市圏※ トップ5		
	シェア	延べ宿泊者数
東京都	37.4%	4273 万人泊
大阪府	16.2%	1848 万人泊
京都府	10.6%	1212 万人泊
千葉県	2.8%	324 万人泊
神奈川県	2.3%	267 万人泊

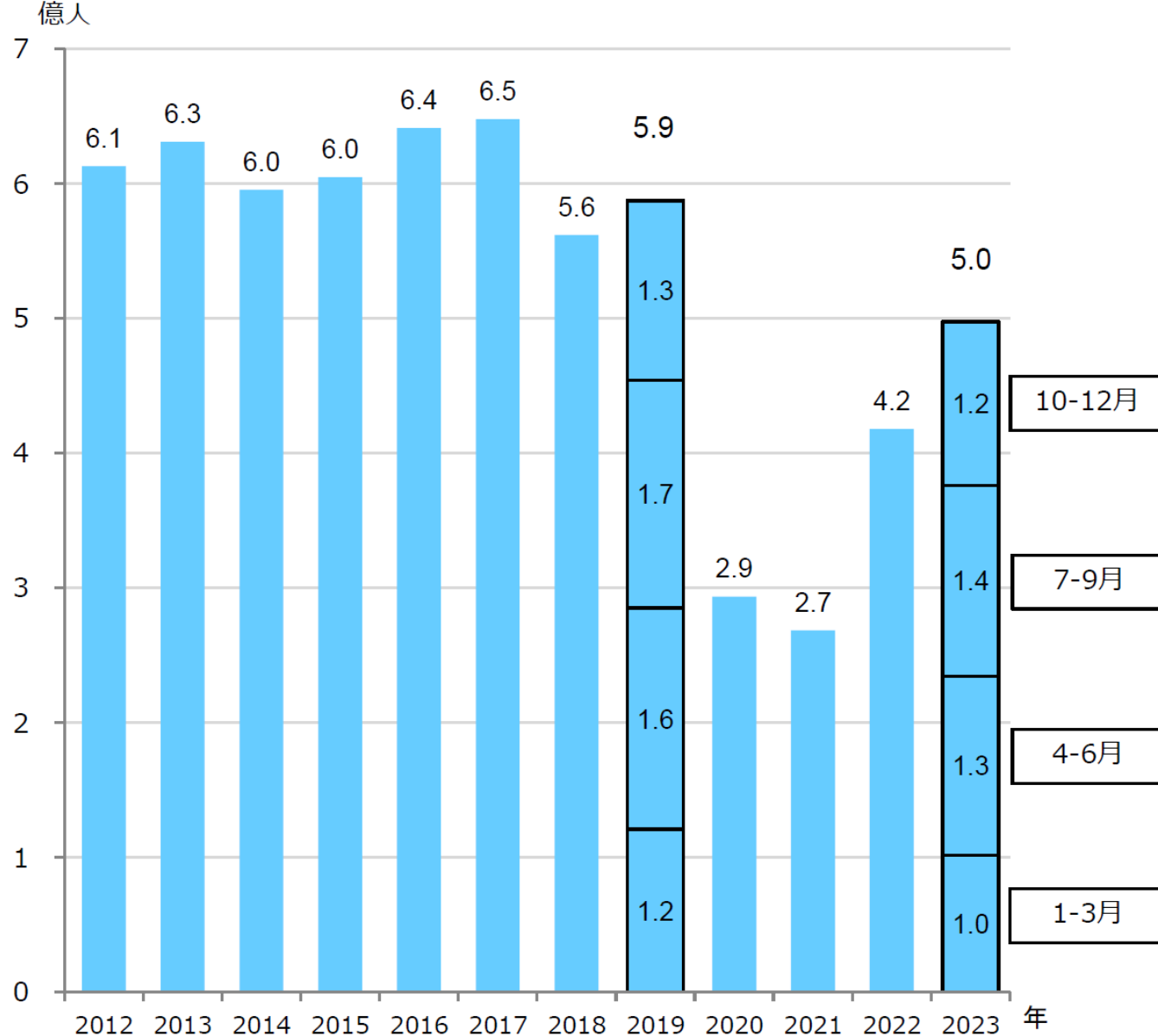
地方部 トップ5		
	シェア	延べ宿泊者数
北海道	5.9%	678 万人泊
福岡県	4.1%	474 万人泊
沖縄県	3.6%	415 万人泊
長野県	1.24%	142 万人泊
山梨県	1.16%	133 万人泊

※埼玉県・千葉県・神奈川県、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県

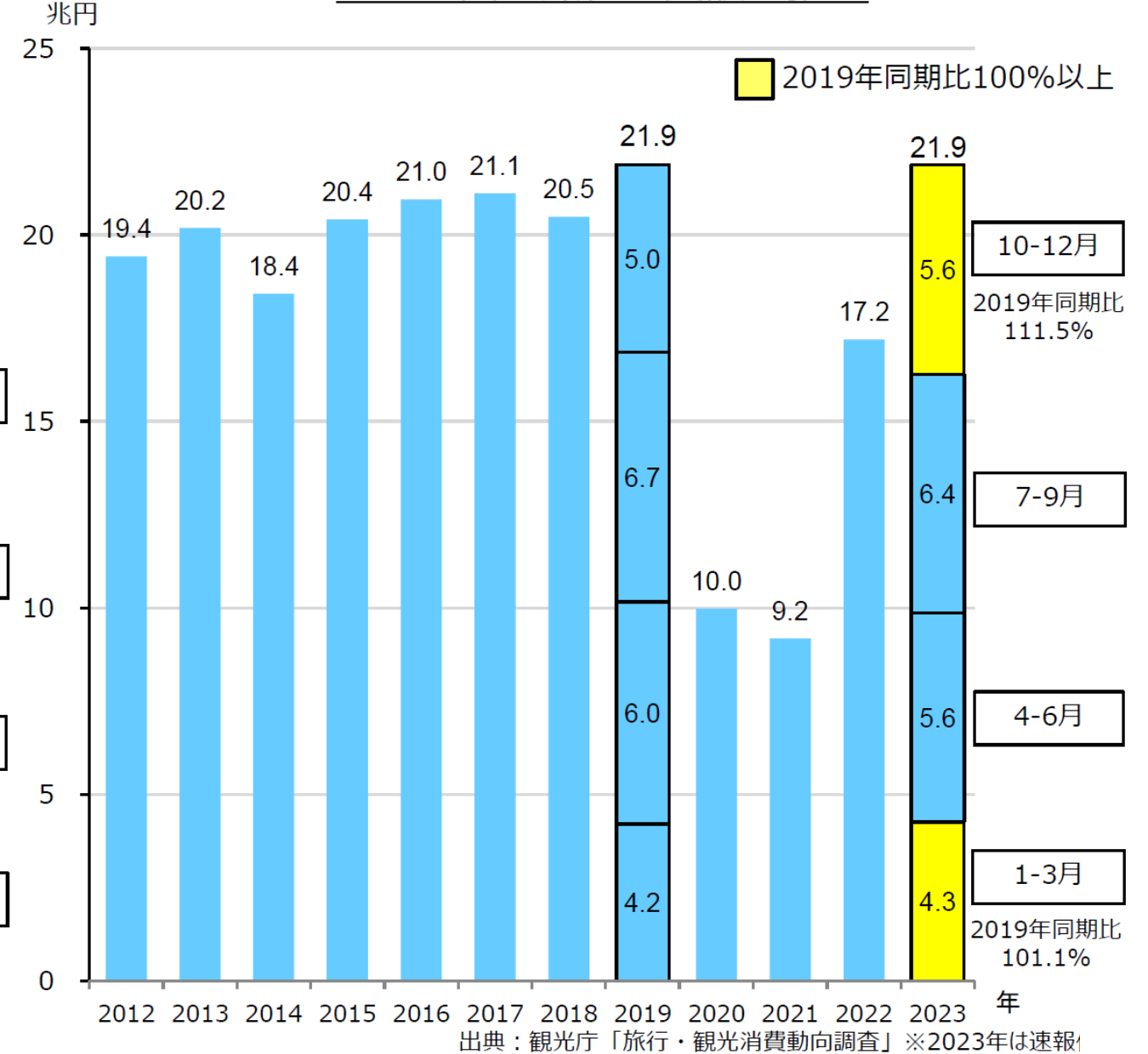
国内旅行の状況

- 2019年までの国内の旅行者数・消費額は概ね横ばいで推移
- 2023年の**国内旅行消費額**は、2019年比**99.8%**と同水準まで回復
- 2023年の**国内旅行者一人当たりの旅行支出**は、2019年比で**17.8%増**(2019年：約3.7万円 2023年：約4.4万円)

日本人国内延べ旅行者数の推移



日本人国内旅行消費額の推移



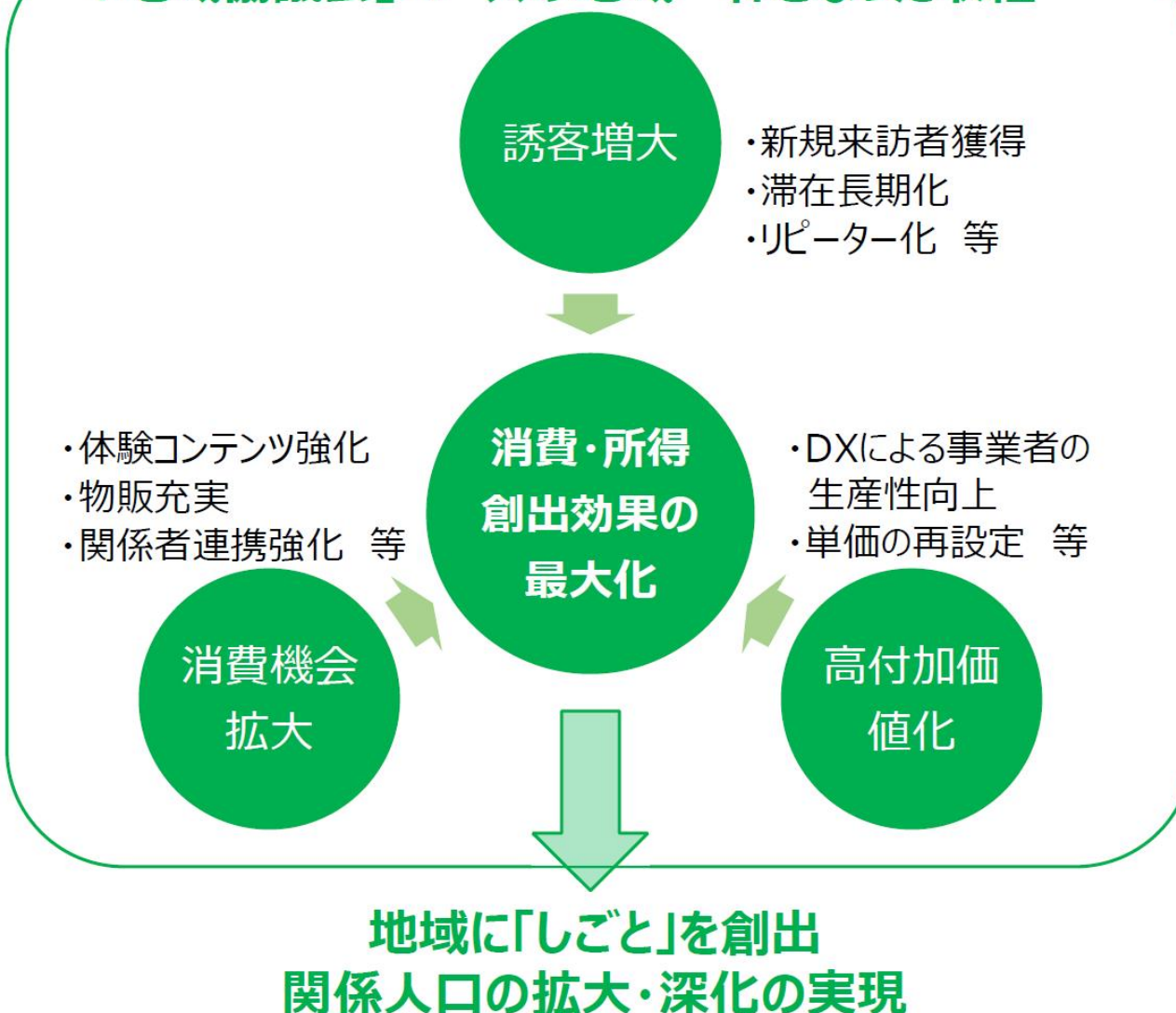
3. 農林水産省が進める地方型観光 ＝「農泊」の取組

地域の持続的発展に必要なビジネスとしての「農泊」を確立

- グリーン・ツーリズムや教育旅行の受入に取り組んできた農泊地域においても、**インバウンド誘客をきっかけ**として新たな「しごと」を作り出し、**持続的な収益を確保**するとともに**地域の雇用を創出**していく
- 訪問者にとって「いつも、いつまでも居て楽しめる農山漁村（むら）」を構築し、やがては**訪問者が、住民と一緒に「農山漁村（ふるさと）」の課題解決や魅力創出に寄与**するような関わりにつなげていく

目指すべき姿

「地域協議会」ベースの地域一体となった取組



特産のホップを使用したクラフトビールの宿泊者への提供
【遠野ふるさと体験協議会（岩手県）】



棚田を活用した「ヨガ道場」の開設
【上粕みろく農場協議会（岡山県）】



世界農業遺産認定地域でのライフスタイル体験
【にし阿波～剣山・吉野川観光圏協議会（徳島県）】



伝統文化を活用したインバウンド誘客
【高千穂ムラたび協議会（宮崎県）】

高単価でも選ばれる質の高い農泊地域の創出

- 意欲ある農泊地域に対して、古民家の改修、泊食分離、多言語表示、キャッシュレス対応や、農山漁村の観光資源の高付加価値化を進めて、インバウンドも含めた富裕層に訴求するホスピタリティを磨き上げていく
- このため、令和6年度予算により、単価向上の取組（宿泊施設の改修、食事の見直し等）、FAXや電話による予約からオンラインによる宿泊予約への改善、非接触チェックインの導入等のDXなどによる経営改善、体験コンテンツ開発などに必要な地域にいない分野の専門家を雇用する経費を支援

高付加価値な農泊モデルの創出



宿泊施設の改修によるインバウンドの誘客
【福井県小浜市の農泊地域の事例】

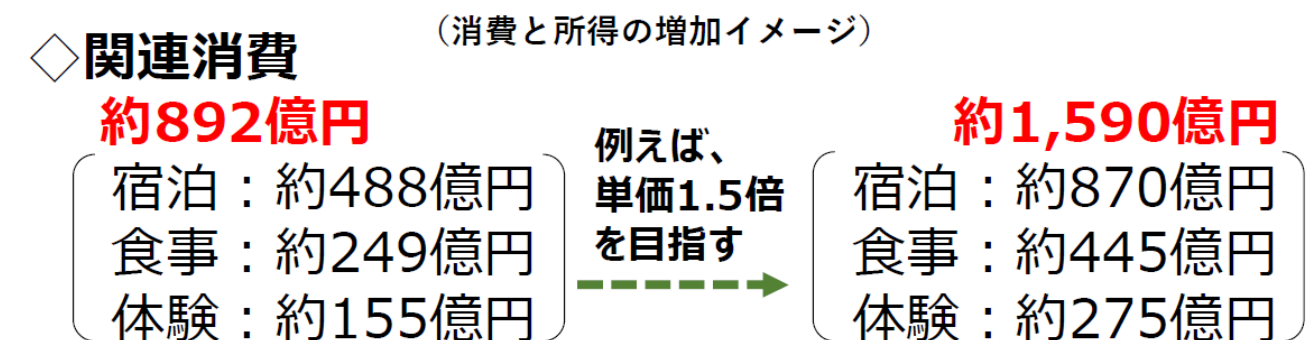
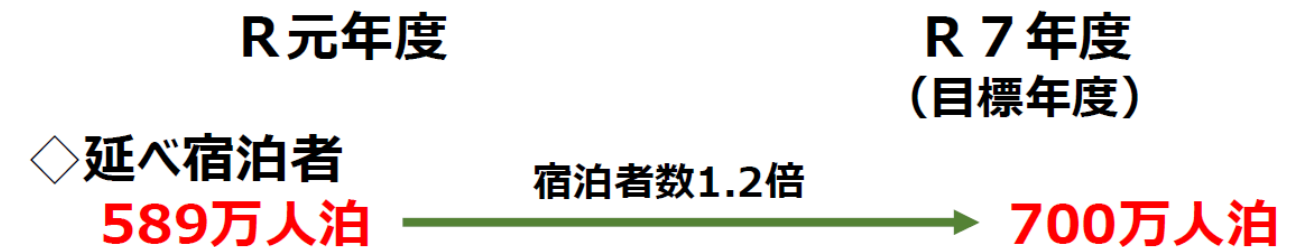


創作料理の提供
【山梨県小菅村の農泊地域の事例】

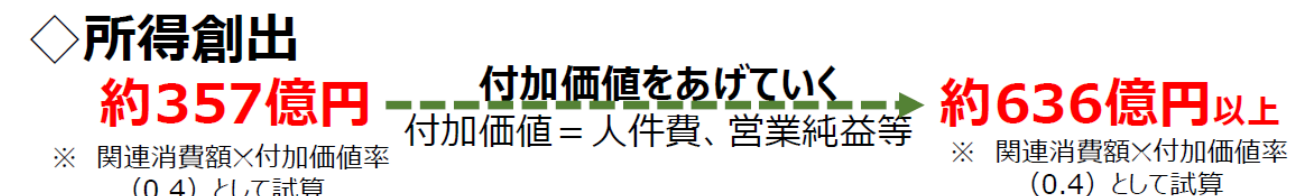


農泊地域と旅行事業者の
商談会の設定

延べ宿泊者数の増と単価の向上による 消費と所得の増加イメージ



観光庁「旅行・観光消費動向調査」をもとに算出



財務省「法人企業統計」をもとに算出

単価向上とコスト縮減で延べ宿泊者数以上に
関連消費額と所得創出の一層の増加を図る

農山漁村地域へのインバウンド需要の取り込み

- 令和6年2月に「農泊インバウンド受入促進重点地域」を21府県から**28地域**を選定し、今後追加公募し、計**40地域**を選定予定
- 重点地域に対し、令和6年度予算により、ソフト・ハード両面の優先的な環境整備、**日本政府観光局（JNTO）**と連携した海外プロモーションの展開、観光庁事業との連携を実施
- 令和7年度末までに、農泊地域の年間延べ宿泊者数**700万人泊**（令和2年度実績：391万人泊）とインバウンド延べ宿泊者数の割合**10%**（令和2年度実績：0.5%）を実現する

農泊インバウンド受入促進重点地域の選定状況（R6.2時点）

- 東北**
- ① ころもがわ農泊地域協議会（岩手県奥州市）
 - ② 牡鹿半島浜泊推進協議会（宮城県石巻市）
 - ③ **一般社団法人 仙北市農山村体験推進協議会**（秋田県仙北市）
 - ④ **大田原グリーン・ツーリズム推進協議会**（栃木県大田原市）
 - ⑤ 秩父地域農泊推進協議会（埼玉県秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町）
 - ⑥ 滑川町農泊推進協議会（埼玉県滑川町）
- 関東**
- ⑦ 鎌倉農泊協議会（神奈川県鎌倉市）
 - ⑧ みのぶ農泊地域連携協議会（山梨県身延町）
 - ⑨ 南木曽「ウェルネス農泊」推進協議会（長野県南木曽町）
 - ⑩ SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会（長野県佐久市）
 - ⑪ 函南町農泊推進協議会（静岡県函南町）
 - ⑫ 寺泊広域まちづくり協議会（新潟県長岡市）
- 北陸**
- ⑬ アルベルゴディフーズ新湊を拓く会（富山県射水市）
 - ⑭ 城端地区活性化協議会（富山県南砺市）
 - ⑮ 白峰林泊推進協議会（石川県白山市）
 - ⑯ 田原市農泊推進協議会（愛知県田原市）
- 東海**
- ⑰ 一般社団法人大紀町地域活性化協議会（三重県大紀町）
 - ⑱ 相模地域海女文化活性化協議会（三重県鳥羽市）
 - ⑲ Inaka Tourism推進協議会（三重県津市）
 - ⑳ 南丹市美山エコツーリズム推進協議会（京都府南丹市）
- 近畿**
- ㉑ 明日香交流人口促進協議会（奈良県明日香村）
 - ㉒ 宇陀市古民家活用地域活性化協議会（奈良県宇陀市）
 - ㉓ 金剛葛城山麓地区農泊事業推進協議会（奈良県御所市）
 - ㉔ 太田川流域農泊振興協議会（和歌山県那智勝浦町）
- 四国**
- ㉕ にし阿波～剣山・吉野川観光圏協議会（徳島県美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）
 - ㉖ てしま農泊推進協議会（香川県土庄町）
- 九州**
- ㉗ うきは中山間地区農泊推進協議会（福岡県うきは市）
 - ㉘ 山都農泊協議会（熊本県山都町）

農泊インバウンド受入促進重点地域における誘客

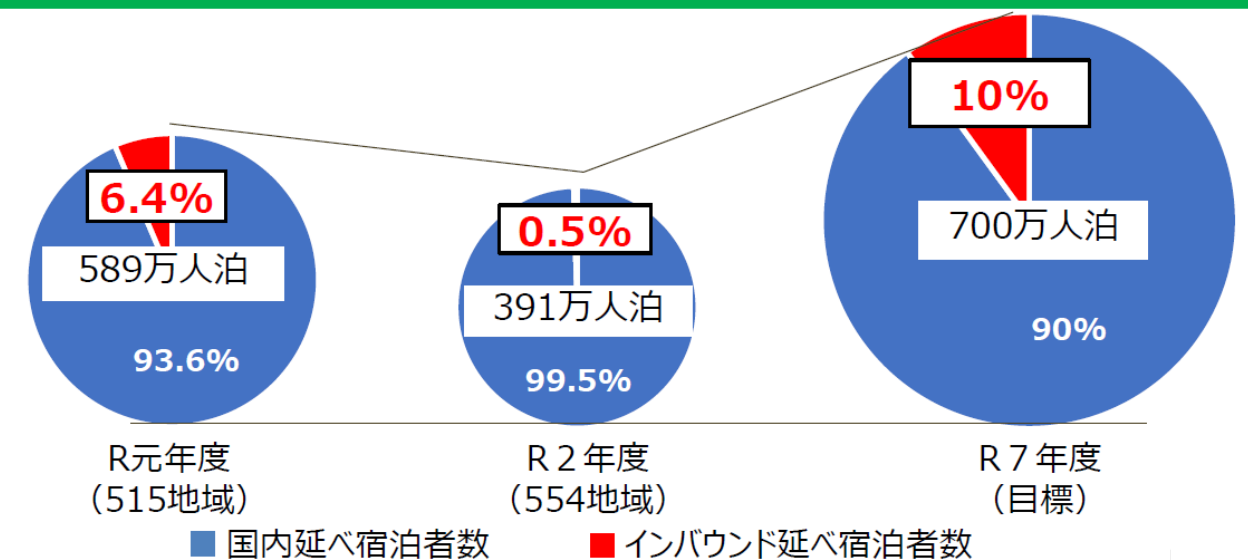


【（一社）仙北市農山村体験推進協議会】



【大田原グリーン・ツーリズム推進協議会】

農泊地域のインバウンド延べ宿泊者数の割合



出典：農林水産省調べ

4. 地域一帯で取り組む アルベルゴ・ディフーズとは

はじめに

1980年代初頭から、新たな建物を建てることのない「建
てないホテル（Albeghi che non si costruiscono）」
に注目し、現在の「アルベルゴ・ディフーズ（Albergo
diffuso）」のモデルを定義するまでには数年の歳月を要
しました。そして、私が考案したアルベルゴ・ディフーズ
（AD）は、オリジナルでユニークなホスピタリティ（お
もてなし）のモデルとして定着し、イタリアを中心に多くの
成功事例を生み出してきました。

ADを定義するにあたって、私は日本の旅館との出会いに
強く魅了されました。旅館という宿泊モデルは当時ヨーロ
ッパで一般的だった、均質化を基本とする“アメリカンス
タダード”ともいうべき宿泊モデルとは全く異なるもの
だったのです。旅館は、均質化を基本とせず、それぞれに
異なる構造を持ち、地域や歴史に根差した「おもてなし」
をするものでした。

日本においてADに興味を持ってくださっている皆さんに、
ADとは何かについて、これまで私が考えてきたADのエッ
センスによって、少しでも多くの方々にアルベルゴ・ディ
フーズの魅力を知っていただければと思っています。

2022年12月
ジャンカルロ・ダッラーラ



ジャンカルロ・ダッラーラ(Giancarlo Dall'ara)

アルベルゴ・ディフーズ国際協会会長。
元ペルージャ大学教授。イタリアの観光、地域開発の
コンサルタントを行う。地震をきっかけに過疎化が進
行し、空き家が増えてしまったイタリアのフリウリ地
区の活性化のために、空き家を活用した宿泊モデルを
考案。独自のおもてなしのモデルとして、アルベルゴ
・ディフーズを提案、アルベルゴ・ディフーズ協会を
設立し、その会長を務める。

アルベルゴ・ディフーズ（AD）の最大の特徴は、ADを構成する客室が地域の住民が住んでいる家の中にあることで、ホテルやリゾート、アグリツーリズムなど、よく知られている“ホスピタリティ（おもてなし）”とは異なる考え方です。ゲストが、一時的とはいえ地域の住民になったような気分を味わうことができるということです。これは以下の3つのことを同時に行うことで実現します。

- 1 新たに建物を建てることなく既存の施設を活用することで、村や歴史的な中心地をゆがめることなく、地域の観光を発展させることです。
- 2 ADが、既存の家屋をネットワーク化することで作られる「ホテル」であるということです。ネットワーク化された家屋の1棟はレセプションとしての機能を果たし、ゲストがまず訪れて、鍵を受け取ったり、ホストとのコミュニケーションをとったりする場所となります。そして、その他の家屋はゲストが宿泊するための客室となります。
- 3 ADが一般的なホテルと同様に、すべてのゲストがルームクリーニングや朝食のサービスなどを利用することができるということです。

<ADの要件>

経営形態	ひとつの事業者が一括して経営・管理すること。
おもてなしのクオリティ	プロフェッショナルで心がこもったサービスを提供すること。
建物と地域の規定	既存の建物を再利用する。また、それは以前から人が暮らしてきた村や町にあること。
施設	食事をする場所、レセプション、共有スペース、バーコーナー等があること。
建物間の距離	建物間は、ゲストの移動が負担にならない距離にあること。レセプションと客室は200m以内を目安とする。

地域	活気あるコミュニティづくりに寄与する存在であること。地域が無人であってはならない。
環境	ありのままの環境があること。地域の文化と融合させること。
認識性	はっきりとしたアイデンティティと、サービスの質が常に安定していること。
地域性	地域や地域の文化と一体化した経営であること。
連帯感	ADとしての誇りと、他のADとの連携意識を持って活動すること。

オスピタリタ・ディフーザ（OD）

ADと理念をともにしつつ、複数の事業者がひとつの組織として連携し、地域全体が一体となって宿泊やその他のサービスを提供することで、地域全体を再生しようとするケースであり、レセプションから各宿泊施設の距離もおおむね1km以内であれば対象となります。

ODは、基本理念はADと共通であり、ADと共に同じ理念を持つ仲間を募り、お互いをネットワークとして結びつけ、国際的連携を深め、ブランド化を目指す宿泊施設です。ODはADの要件といくつか異なるポイントもあります。以下のような要件が必要となります。

<ODの要件>

ADの理念と同じく地域の発展と持続可能な活動を目指す。

経営理念が統一されたネットワークで運営される事。

客室が住民が生活する集落内にあるか、周辺に位置する事。

地域に根ざした伝統と本物を意識した経営とサービス。

三つ星ホテル相当の設備、サービス、オフ・オンライン予約、インフォメーション、食事、娯楽等を備える。

ネットワークの中心から各宿泊施設まで、おおむね1km以内とする。

ADは年間を通して営業する事が必要であるが、オスピタリタ・ディフーザにおいて必須要件ではない。

アルベルゴ・ディフーゾタウン（ADT）

ADTはADまたはODを計画・推進し、地域の持続と発展を目指す「自治体または地域」を認証するものになります。ADやODが個人や事業者、DMO等を認証するのに対して、ADTが自治体や地域を認証するもののため、求められる要件も以下のように異なります。

<ADTの要件>

ADTはアルベルゴ・ディフーゾインターナショナル(ADI)と提携し、地域でADまたはODを希望する事業者等とともに、地域の交流人口の増加と発展に貢献する。

ADTは地域に存在するか設立予定のADまたはODの維持、質とサービス等の向上のために協力し、ADやOD事業者等とのコミュニケーションに務める。

ADIはADTと連携して毎年行われる域内のAD又はODの評価を行いADIに報告し、ADIは結果をSNS等で公表する。

ADIは3年ごとにADTを訪問して視察、ミーティングと講演を行い、ADTの発展に寄与する。

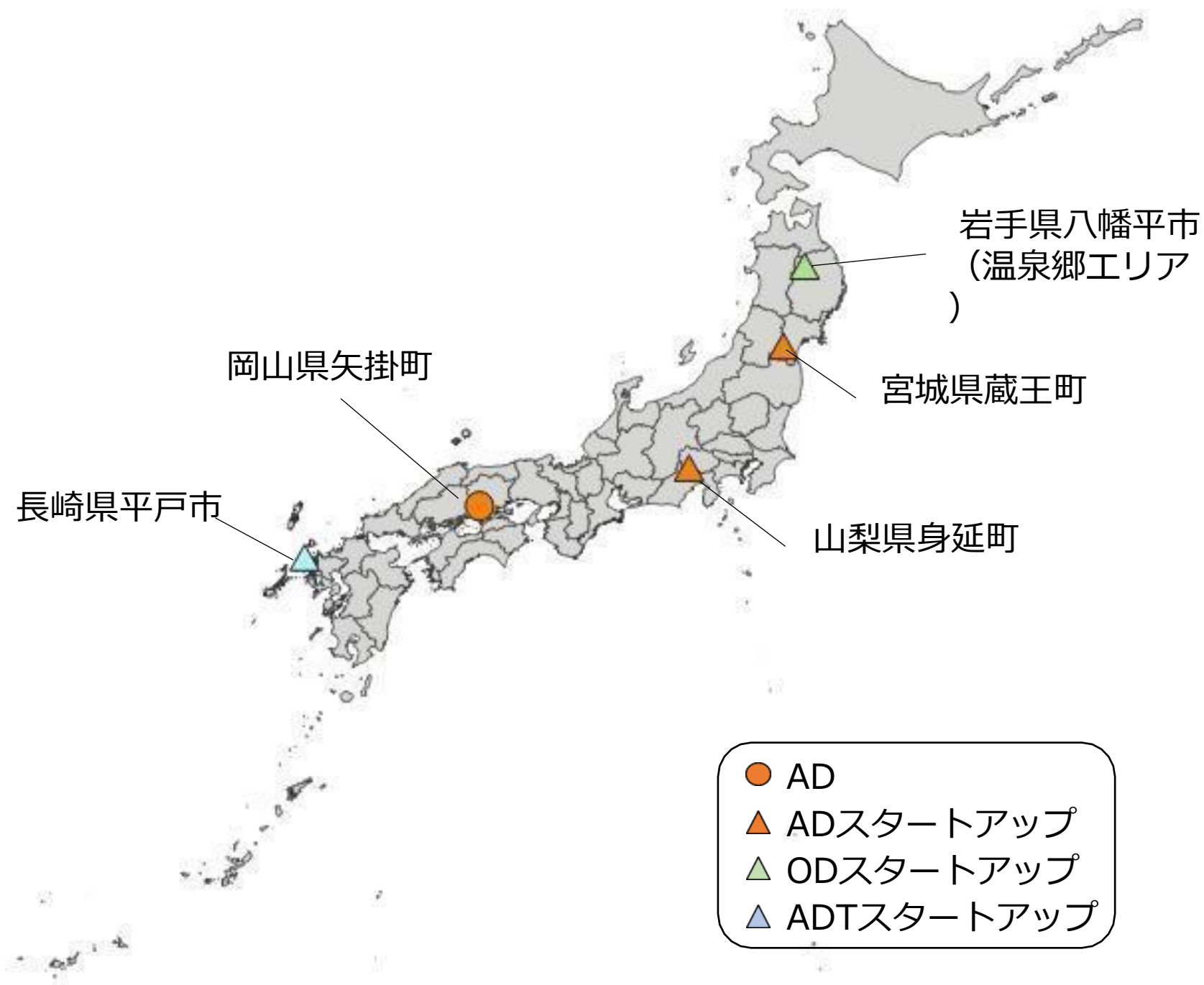
ADIはADTの域内で認定されたADまたはODに、毎年認定証を交付するが、認定証はADTから授与される。

ADIへの認定料はADTが責任を持って毎年決められた期限に納付する。

毎年のADIとADTとの審査で、ADまたはODが審査に通らない場合は1年後に再審査を行う事とする。

ADTの審査により公認ADかODが無くなった場合は、ADIとADTの話し合いによりADTの名称を取り下げることができる。

ADTは同じく認定を受けたADTや各国のAD、ODとの交流を推進し、域内のAD、ODの活性化とプロモーションに務め、ADの賛同者の獲得に努力する。

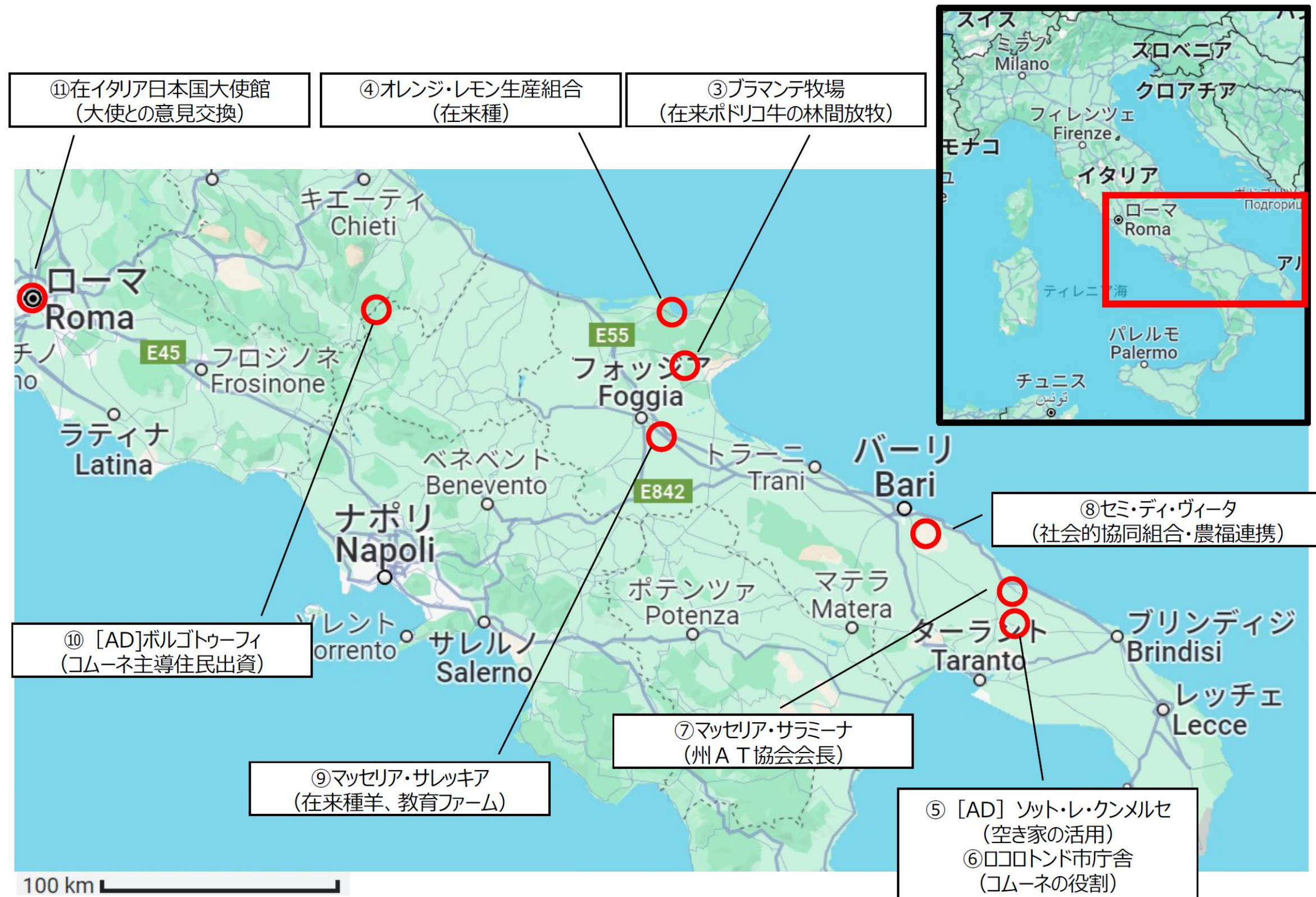


認証タイプ	市町村名	認証先
AD	岡山県矢掛町	矢掛屋INN&SUITES
ADスタートアップ	宮城県蔵王町	蔵王農泊振興協議会
	山梨県身延町	鶴林精舎
ODスタートアップ	岩手県八幡平市 (温泉郷エリア)	株式会社八幡平DMO
ADTスタートアップ	長崎県平戸市	平戸市

5. イタリアのアルベルゴ・ディフーズ

【イタリア視察】アルベルゴディフーズ（1）

イタリアにおける有機農業、アグリツーリズモ、アルベルゴディフーズ（AD）による農村振興の取り組みを調査し、特にADの可能性を検討



農林水産省資料より

アルベルゴディフーズ ロコロトンド①

空き家の活用＝アルベルゴ・ディフーズからの地域再生
(丸い丘の町ロコロトンド)



旧市街の空き家を改修し、狭い屋内外の階段を登り下りするかつての暮らしを体験 11月19日(日)20日(月)連泊
宿泊客の満足度は非常に高いが、施設の改修や維持には優秀な石工の確保が課題

アルベルゴディフーズ ロコロトンド②

空き家の活用＝アルベルゴ・ディフーズからの地域再生
（丸い丘の町ロコロトンド）



日曜日のミサに多くの会衆（共同体の維持）



クリスマス・イルミネーション
の点灯式に向けた街の飾り付け

基礎自治体の関与がなくなり、今年「旧市街」の有志の活力が主導
住民も一定の評価



アルベルゴ・ディフーズ（AD）のオーナーが複数の飲食店を経営するなど経済活動も再開
「AD化はいかんにして受け入れられたのか？」「資産価値1軒1万ユーロが今や5万ユーロ、誰も否定しない！」

11月19日(日)20日(月)連泊

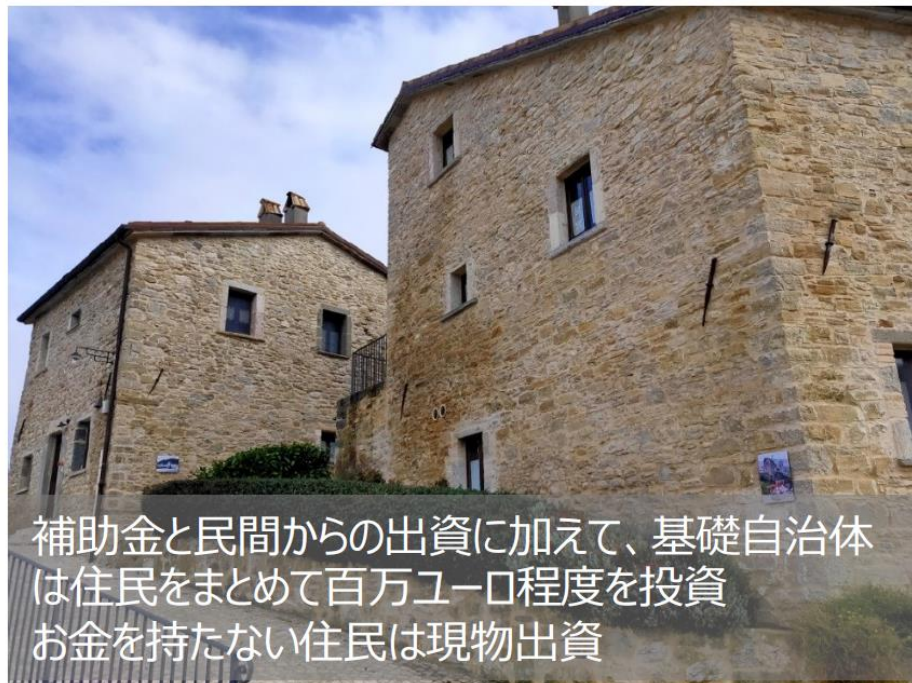
農林水産省資料より

アルベルゴディフーズ ロコロトンド③



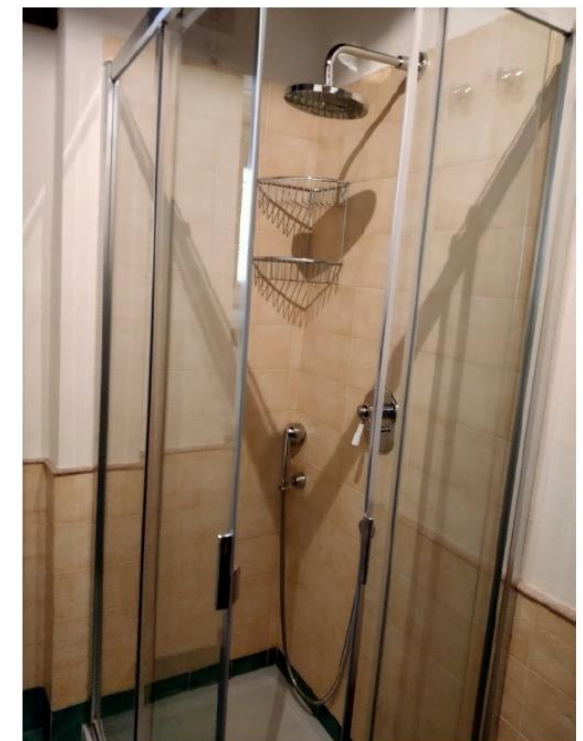
アルベルゴディフーズ ボルゴトゥーフィ①

廃畜舎を高質なホテルに改築－全住民320人の出資・参加
（ADボルゴトゥーフィ@カステル・デル・ジューディチェ）



アルベルゴディフーズ ボルゴトゥーフィ②

廃畜舎を高質なホテルに改築－全住民300人の出資・参加
(ADボルゴトゥーフィ@カステル・デル・ジューディチェ)



アルベルゴディフーズ ボルゴトゥーフィ③

廃畜舎を高質なホテルに改築ー全住民300人の出資・参加
(ADボルゴトゥーフィ@カステル・デル・ジューディチェ)



天井や梁と調和した耐震施工



＜基礎自治体主導のプロ
ジェクトはなお進行中＞
ADのほかにも

- 老人ホームを運営する社会的企業
- 良好な空気と環境に基づく農場（ビールやハチミツ、りんご農園→これからサフランにも取り組む）

COVID後の新世代の職と環境を創造するEUの補助金（2000万ユーロ！）を獲得したところ

加えて、

- 基礎自治体から500万ユーロ
- 投資家から500万ユーロ

アルベルゴディフーズ ボルゴトゥーフィ④



MECENATE PALACE HOTEL - Roma



農林水産省資料より

主催：一般社団法人日本ファームステイ協会
共催：アルベルゴ・ディフーズ国際ナショナル極東支部

参加費無料

アルベルゴ・ディフーズ シンポジウム 2024 in Japan (仮)

アフターコロナ時代、インバウンド需要が強く復活し、国内外から誘客を望む観光受入地域にとっては大きなチャンス到来です。観光による地域再生の切り札として注目される「地域まるごとホテル」は、先行するイタリアでは、「アルベルゴ・ディフーズ」として実績を上げています。海外での先進的な事例と合わせて日本でもアルベルゴ・ディフーズの認証に取り組む地域の最新事例を、世界情勢を交えてダッラーラ会長と有識者が語る注目のシンポジウム開催です。

会場参加
お申込定員
先着100名

対象者

地域の受け入れ観光事業者、地域まるごとホテルに取り組む観光事業関係者、地方への誘客に携わる運輸事業者、自治体関係者、観光事業者等

イベント 概要

アルベルゴ・ディフーズ シンポジウム2024 in Japan (仮) 概要

令和6年 7月3日 (水) 15:00～18:00 (会場受付14:30開始)

プログラム内容 (予定)

1. 開会
2. 【基調講演】アルベルゴ・ディフーズのイタリアおよび世界状況について
3. 【特別講演】日本のアルベルゴ・ディフーズ認証地域の現状
 - (1) 既存認証地域の進捗
 - (2) スタートアップ認証 (村田、射水)
 - (3) 本認証 (蔵王)
4. 【シンポジウム】
アフターコロナ時代におけるアルベルゴ・ディフーズの魅力と可能性
- 【中継】世界のアルベルゴ・ディフーズへの取組 -
5. 閉会



ジャン・カルロ・ダッラーラ会長
プロフィール：
元ベルージャ大学教授。イタリアの観光、地域開発のコンサルタントを行う。地震をきっかけに過疎化が進行し、空き家が増えてしまったイタリアのフリュウリ地区の活性化のために、空き家を活用した宿泊モデルを考案。独自のおもてなしのモデルとして、アルベルゴ・ディフーズを提案、アルベルゴ・ディフーズ協会を設立し、その会長を務める。

お申込み専用
Webフォーム



見本

会場アクセスはこちら



シンポジウム 参加有識者	アルベルゴ・ディフーズ 国際ナショナル 会長 ジャン・カルロ・ダッラーラ	ノンフィクション作家 島村 菜津
	アルベルゴ・ディフーズ 極東支部 代表理事 上山 康 博	帝京大学 地域経済学科 准教授 五 艘 みどり

参加方法

会 場 参 加：時事通信ホール 東京都中央区銀座5-15-8

オンライン参加：アクセスURL、開始時刻等は参加者に別途メールでご連絡致します

申込方法

お申し込みは左上のQRコードから。

又はお申込み専用ページへ直接アクセスください。 ➡ <https://XXXXXXXX> (未定)

申込期限

令和 6年 7月1日 (月) 昼12:00まで ※アーカイブ視聴のご案内：事前のお申込者は、開催後1ヶ月間、本イベントの動画視聴が可能となります。

主催／共催	企画・運営	申込・お問い合わせ
主催：一般社団法人日本ファームステイ協会 共催：アルベルゴ・ディフーズ極東支部	株式会社百戦錬磨 一般社団法人全国農協観光協会 株式会社農協観光	事務局：株式会社百戦錬磨 東京オフィス (担当：高橋) メール：info@hyakuren.org

2024年7月3日 (水)

東銀座、時事通信ホールに於いて、

アルベルゴ・ディフーズシンポジウム2024 in Japan 開催決定。

ジャン・カルロ・ダッラーラ会長来日講演、
および世界のアルベルゴ・ディフーズ地域と
の中継も予定されている。

インバウンド

×

農泊

×

アルベルゴ・ディフーズ